

指導教員名	青山 将己
-------	-------

活動区分	イベント支援・運営型	連携先	学校(教育機関)
			イベント団体

～ マスターズ甲子園 大会プロモーション推進事業 ～

活動の様子



運営委員会での研修風景



大会後の様子

企画・活動概要

本プロジェクトでは協力大学として締結する「マスターズ甲子園」に参画し、運営委員として大会の企画・運営及び、プロモーション推進活動を行った。具体的には、大会公式X(旧Twitter)アカウントを本ゼミで受託し、インフルエン্স効果(フォロワー数、インプレッション)の最大化に向けた戦略の検討、ならびに効果検証を実施した。

経緯・背景・目的

「マスターズ甲子園」は、全国の高校野球OB/OGが、性別、世代、甲子園出場・非出場、元プロ・アマチュア等のキャリアの壁を超えて出身校別に同窓会チームを結成し、全員共通の憧れであり野球の原点でもあった『甲子園球場』で白球を追いかける夢の舞台を目指そうとする大会である。マスターズ甲子園では、FacebookとInstagram、X(旧Twitter)を運用しているが、大会参加者の年齢層が高いためSNSの運用に課題を抱えている。本プロジェクトでは大会公式X(旧Twitter)アカウントを運用し、インフルエン্স効果の最大化に向けた戦略を検討することを目的とした。



球場内での活動風景

取り組む課題

- ・2024年11月9日、10日に開催される「マスターズ甲子園」の大会運営(開会式・閉会式の運営、選手インタビュー、撮影・メディアに分かれ、大会サポート)
- ・大会公式Xの定期更新、及びフォロワー数増加に向けた投稿内容の検討
- ・Instagram班との連携

本学(学生)の役割

昨年度に引き続き、学生たちは大会運営委員として、神戸大学で毎週火曜日(10月以降)に開催された運営委員会に参加。大会の準備・企画段階からスタッフとして大会に参画した。また、同時並行で、大会公式Xを運用した。定期的にマスターズ甲子園大会事務局とのミーティングを実施し、インフルエン্স効果(フォロワー数、インプレッション)の最大化に向けた戦略の検討を行った。また、1月には報告会を実施し、来年度に向けた方向性について話し合った。



スタッフ・ボランティアの集合写真

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

運営委員会では、他大学学生とコミュニケーションを図り、大会に向けた準備を2ヶ月間行いました。大会当日には、開会式・閉会式の運営、選手インタビュー、撮影・メディアなどを担当。スポーツイベント運営の現場を肌で感じる2日間となりました。また、ホームページやSNS、Youtubeで用いる写真・動画の編集も担当し、スポーツイベントにおけるメディアマーケティングの重要性や、公式SNSを運用することに対する責任を強く感じた様子でした。年間を通して運用した公式Xでは、フォロワー数2,243人(2024年5月)から2,408人(2024年12月)への増加を達成しました。



報告会の様子

指導教員および関係者の紹介

<指導教員>



人間社会学部
人間健康学科
講師
青山 将己(アオヤマ マサキ)

<専門・担当科目等>
【スポーツプロモーション】
スポーツビジネス論、スポーツ組織論、
健康サービス企画運営演習

<関係者・企業等>



マスターズ甲子園
実行委員長
長ヶ原 誠(チヨウガハラ マコト)